

レモン哀歌

高村 光太郎

そんなにもあなたはレモンを待つてゐた
かなしく白くあかるい死の床で
わたしの手からとつた一つのレモンを
あなたのきれいな歯ががりりと噛んだ
トペアズいろの香気が立つ
その数滴の天のものなるレモンの汁は
ぱつとあなたの意識を正常にした
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑ふ
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ
あなたの咽喉に嵐はあるが
かういふ命の瀬戸ぎはに

智恵子 ちえこ はもとの智恵子 ちえこ となり
生涯 しやうがい の愛 あい を一瞬 いつしゆん にかたむけた
それからひと時 いんしゆん
昔山巔 さんてん でしたやうな深呼吸 しんそく を一つして
あなたの機関 きかん はそれなり止まつた
写真 しやうしん の前に挿 さ した桜 さくら の花 はな かげに
すずしく光るレモンを今日 けふ も置 お かう

〈出典 『智恵子抄』 (新潮社、二〇〇三年)〉

【著者】高村 光太郎 (たかむら こうたろう)

一八八三(明治一六)年—一九五六年(昭和三二)年

詩人、彫刻家、評論家、東京都の生まれ。

【著書】『道程』『記録』『典型』など